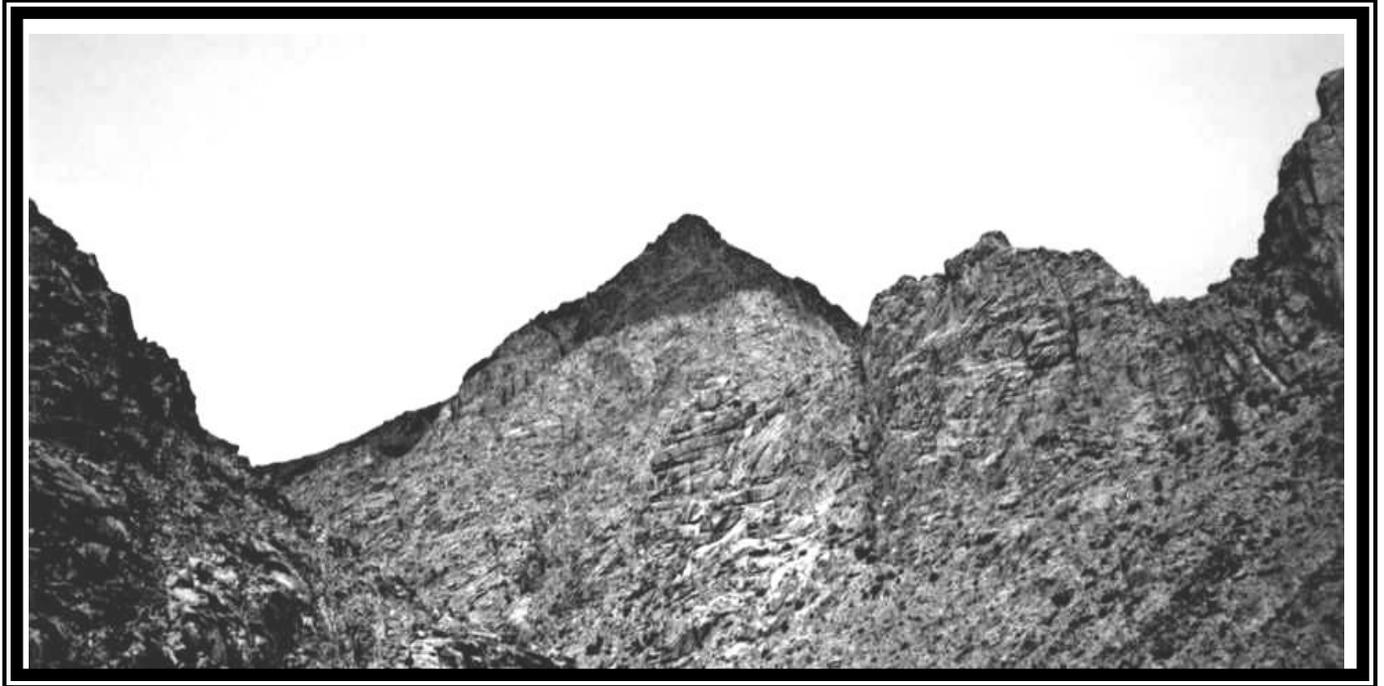




Anchor

31号

2003年9月



「三日目の朝となって、かみなりと、いなずまと厚い雲とが、山の上であり、ラッパの音が、はなはだ高く響いたので、宿営におる民はみな震えた。」出エジプト記 19:16

「あの時には、御声が地を震わせた。しかし今は、約束して言われた、『わたしはもう一度、地ばかりでなく天をも震わそう』。この『もう一度』という言葉は、震われないものが残るために、震われるものが、造られたものとして取り除かれることを示している。このように、わたしたちは震われない国を受けているのだから、感謝をしようではないか。そして感謝しつつ、恐れかしこみ、神に喜ばれるように、仕えていこう。」ヘブル 12:26-28

記事

- どれがほんとうのシナイ山か？
- 隠れた世界最大のテロ集団とは？
- なぜ、私はセブンスデー・アドベンチスト改革教会に加わらないか？
- 2003年秋季セミナー「第三天使の使命と医事伝道」のお知らせ

シナイ山—どれが

ほんとうのシナイ山か？



シナイ半島

世界の二つの大宗教、キリスト教とユダヤ教にとってシナイ山は、その存在を左右する場所である。シナイ山は本当にあったのか。映画「十戒」のようなことが実際に起こったのだろうか。神が本当に石にご自分の指をもって十戒を書かれたのだろうか。



アラビヤ

近年これらのことが実際に起こった証拠が見つかった。そして長年当然のように信じられてきたシナイ山の場所は間違いであることが分かったの

だ。

ホレブ／シナイ山 — それはどこにあったか？

聖書は何と言っているだろうか？人間の発見にはしばしば間違いがあったりする。進化論者の類人猿化石発見のように。

もし我々が解答を見つけるのに聖書に行くなら、シナイ山の場所を確かめることはそれほど難しいことではない。神はモーセにエジプトの奴隷になっている同胞を救出するという大事業についてこう語った。出3:12「わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしのあなたをつかわしたしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたがたはこの山で神に仕えるであろう」。

神がモーセとこのことを話したとき彼は正確にどこにいたのだろうか？それを見つけ出すためには出3:1,2を見る必要がある：「モーセは妻の父、ミデヤンの祭司エテロの羊の群れを飼っていたが、その群れを荒野の奥に導いて、神の山ホレブにきた。ときに主の使は、しばの中の炎のうちに彼に現れた。彼が見ると、しばは火に燃えているのに、そのしばはなくならなかった。」

この会話は「神の山」のふもとで起きた。モーセは、「聖なる地」に立っているから、くつを脱ぐように言われた。この時モーセはミデアンにいた。モーセは羊の群れを「荒野の奥に導いた。」欽定訳では「荒野の後方」となっている。「荒野の後方」と言っているからには、「前方」がある。前方と後方を隔てている何かがあるに違いないと推定できる。



発見者のロン・ワイヤットは聖書の記述によれば、荒野の後部というと紅海を渡ってからのミデアンのことを指していると推測した。出エジプトから紅海までの通路も今までの伝説を覆し、アカバ湾こそイスラエル人が渡った紅海であるという十分な証拠を発見した彼は、アカバ湾のかなたのミデアンに神の山、ホレブがあるに違いないと考えた。そこに神の民を導いて礼拝させるべき山、シナイ山があるはずであった。燃えるしばの中から神が語った場所があるはずであった。ここに記されている神の山に適しているたった一つの候補地が湾の東の方に見つかった。それは 現在ヤベル、エル、ローズ(神の律法の山)として知られている山であった。

彼の航空写真で見るとその山は半円状になっていてその周りは広大な荒野で、子供、大人の数百万のひと、家畜を収容するには十分な広さの宿营地である。それだけでなく、かなり近くに一つの大きいオアシスがあり、おそらく彼の義理の父、エテロの町、アル・バドがあったと思われる。アル・バドとこの地域で最も高い山、ヤゼル・エル・ローズの周囲に荒野があり、モーセが群れを導いてきた山脈の間にいくつもの谷間があるのを見た。ロンはこの山こそシナイ山でなければならないと確信した。

「ヤベル・ムサの斜面にある聖キャサリンの現在の修道院の起源は、紀元 527 年にさかのぼる。それは最初、コンスタンチン大帝の母が建て、200 年後にジャスチニアン皇帝が現代の修道院を建てたものであった。」（インタープリーターズ聖書辞典、1962、p 376）

「シナイ山の地理的な場所の位置はユダヤの伝説にはない。王制の時には、その場所がすでに不明になっていたようである」（ユダヤの百科事典、Vol. 14、ページ1599）

シナイ半島と一般に言われているところは、パウロの時から約 300 年、出エジプトから約 2,000 年経つまでは存在しなかった。コンスタンチン大帝が母のキャサリンに幻で見た場所を見つけるように中東に送った。彼女はシナイ半島のこの山を聖書のシナイ山として選んだ。カトリックの伝説によると、天使が聖キャサリンの体をシナイ山に運んだそうだ。キリスト教会は愚かにもこの場所を本当のシナイ山と思い込んで多くの巡礼者が絶えない。

1761～1767 年にデンマークの探検家、ヴォン・ヘヴェンは、伝統的なシナイ山遺跡について次のように語っている：(トルキルド・ハンセンの“アラビアフェリックス：1761～1767 年のデンマークの探検に報告されている)：「私が以前に観察していたことであるが、我々がシナイ山にいるとは考えられない。聖キャサリナの修道院は狭い谷間に位置し、中サイズの軍隊でさえキャンプするには不十分である。60 万人の男性と女性子供を合わせて 300 万人もの群集を宿営させるなどとは考えられない。」

モーセがエジプトを逃れた時、ミデアンでなければ安全ではないと彼は知っていた。古代エジプトの歴史の研究から、いわゆる従来の「シナイ半島」はミデアンではなかったことが分かる。

そもそもシナイ半島は、いつもエジプトの領域であった。エジプトがシナイ半島を支配して鉱石の採掘をしていた証拠はたくさんある。この考古学的な証拠は今日もなお存在し、誰でも見ることができる。半島にはほとんど人は住んでいない。ただ、アカバ湾でスキューバダイビングしたり、あの伝説のシナイ山の旅行者のためのガソリンスタンドがオアシスの近くにあるだけである。

ジェームス・モントゴメリーの「アラビヤと聖書」の p 31 にこう書いてある：「...エジプトのワディーからアカバ湾の西方一帯はいつもエジプト政府に属していた。今日も実際はエジプトの境である。...南アラビヤ人たちはその地域をミスライム、すなわちエジプトとよんでいた。」(University of Pennsylvania Press, 1934, p31)

北西アラビヤ地域に伝わるモーセとエテロの伝説：

興味深い重要なことは、北西アラビヤ(ミデアン)で幾人かの探検家が広い地域にわたってモーセとエテロについての伝説を発見したことである。この地域の人々は、今日もこの山のことを“Jebel Musa”=ヤベル・ムサ、「モーセの山」と呼んでいる。

「ミデアン」と「シナイ」に関する聖書注解

近年になって、本当のシナイ山の証拠を探す調査がなされてきている。なぜなら、伝統的なシナイ山は聖書の記述に合わないことが分かってきたからである。どういうわけか、多くの聖書注解者たちはシナイ山はミデアンにあったという事実を今まで単に無視してきたのである。

いくつかの聖書注解を見るとミデアンはサウジアラビアにあることには同意している。

いのちのことば社の「聖書ガイドブック」をのぞいて見よう：「アラビヤ北西部の地方。聖書の世界の民『ミデヤン人』を見よ。モーセはパロの手を逃れて後、ここにすんだ。ギデオンはミデヤン人の侵入者を敗走させた。出 2:15、士 6 章等」674。「聖書辞典」p 664 に「ミデアンびとに占有されていたアラビヤの砂漠の一地方(創 25:6)。出 2:15、16、3:1 ではミデヤン。」となっている。

しかしながら、「シナイ山」で調べると同じ本に、それは、伝統的なシナイ半島にあるとされている。

パウロはなんと言っているだろうか？

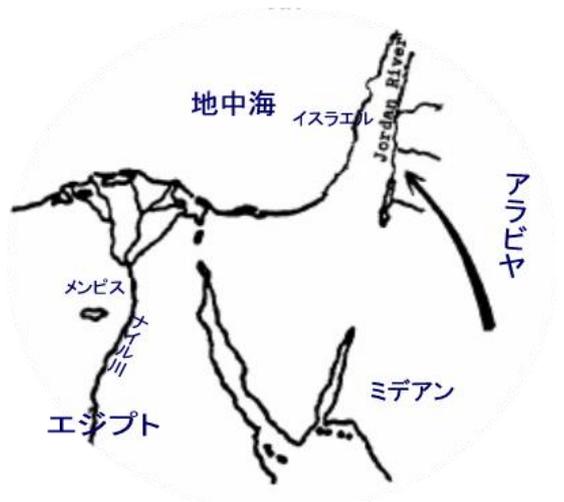
ガラテヤ 4:25 に「ハガルといえば、アラビヤではシナイ山のことで、今のエルサレムに当る。」欽定訳では「アラビヤにあるシナイ山」となっている。サウジアラビアにシナイ山があるとしている注解書はわずかだそうだ。“Peake’s Commentary on the Bible”はそのように注解している。神は真のシナイ山が発見されるまでは、知られないままにされていたのである。必要な時に神はあきらかにされるという事実は、霊的な真理においても同じである。

「セイル山、エドム、ミデアンの地と連結したシナイ山に関する聖書の記述によると、あきらかにアカバ湾の東の地域である。それは Beke (1834), Walhausen (1886), Sayce (1894), Moore (1895), Shede (1897), Gall (1898), Gunkel (1903), Edward Meyer (1906), Schmidt (1908), Gressman (1913), Haupt (1914), and by Alois Musil in ‘The Northern Hegaz’ (1911) 等の学者が指摘していることである。“On the Track of the Exodus” by C. C. Robertson, p. 87.

ミデアンがサウジアラビアにあったということが旧約聖書の記述と合致するのである。ギデオンはミデアン人の攻撃を受けたことがあったが、それはヨルダンの東からであって、今日のシナイ半島方向からではない。(士師 6:33)。

まとめ：

1. モーセはミデアンに逃れた。「神の山」は「ホレブ」(出 3:1) と呼ばれた。神は「この山」に民を連れてくるように言われた (出 3:12)。
2. イスラエルは後にミデアンのホレブ「神の山」に連れてこられた (出 17:6;18:1,5)。神がモーセに言われたのと同じ山であった。
3. マラキ 4:4 はホレブは律法の与えられたシナイとしている。
4. ガラテヤ 4:25 には「アラビヤにあるシナイ山」(欽定訳)とある。
シナイ半島にあるシナイ山ではない。
5. ギデオンはミデアン人の攻撃を受けたことがあったがヨルダンの東からであって今日のシナイ半島方向からではない。(士師 6:33)。



近年考古学の発見：

シナイ半島のシナイ山と言われてきたところは、コンスタンチン大帝の母キャサリナが、4世紀にペドウインが燃える柴を見つけたというのでそこに教会を建てるように命じたという。何の科学的な探索がなされたわけではなかった。1956年以來、考古学者たちは証拠発見に全力を注いだが無見つかっていない。

ロン・ワイヤットはアカバ湾にエジプト軍の車輪などを発見して後、東の方に山を探したがシナイ山にあたるものは、ただひとつ、ヤベル・エル・ローズ以外にないと思った。

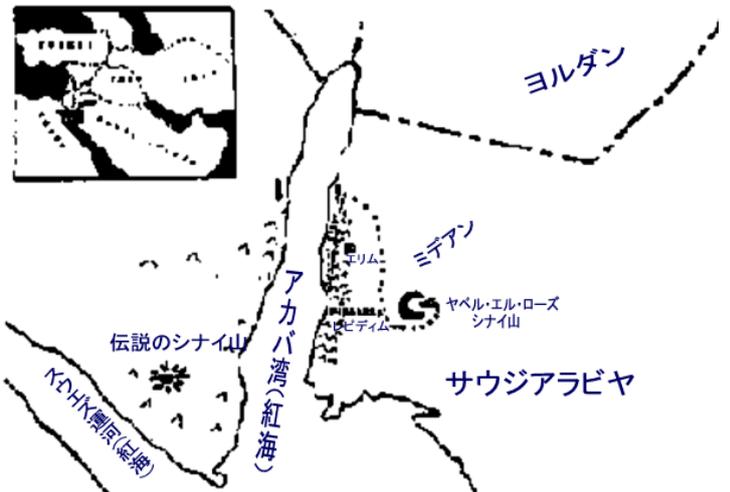
この山は、半円形になっていて、5,000 エーカー(20,230 平方キロメートル)の広場があり、200 万人を収容するのに十分な広さであった。そこは、紅海によって遮断され、西側のシンの荒野、平原とは対照的であった。西側のエジプト領から完全に遮断され、山々に囲まれていて安全な地域であった。ここに彼らは「久しく」「長く」留まっていた(申 1:6)。

シナイ山はこの地域で最も高く、標高 2,600 メートルもあった。フィルビーは「ヤベル・エル・ローズのマッシューフ 《大山塊または断層地塊》」とその荒涼とした花崗岩の丘陵地帯に畏敬の念をもった。ロン・ワイヤットの案内者はそれを見て突然叫んだ。「nahm, Jabel Musa henna!、ナムム、ヤベル ムーサ ヘンナ」「そうだ、これがモーセの山だ!」と。

山の頂上は黒く焦げている。出 19:18 に「シナイ山は全山煙った。主が火のなかにあつて、その上に下られたからである。その煙はかまどの煙のように立ち上がり、全山ははげしく震えた」とある。

ヤベル・エル・ローズのふもとに金の子牛が建てられた祭壇さえあった。そこにはエジプト神話のアピスの牛が彫り刻まれている。ロン・ワイヤットがこの祭壇をレイヤード大学の考古学者に見せたところ、彼はただちにその重要性を認めた。サウジアラビヤに、他にこのようなものはないという。出エジプトに出てくる金の子牛の物語はよく知られているが、今日その実際のものが見つかり発見されたのである。サウジの権威筋が外国人に立ち入りを許可するまでは、この場所を見ることは非常に困難であったがついには発見に成功したのである。

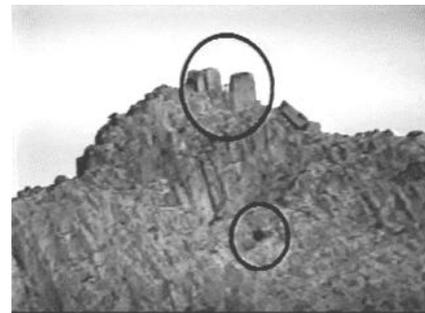
ロン・ワイヤットが発見したもののいくつかを挙げて



みる:

エリヤが入ったホレブの洞穴

列王紀上 19:8,9 「彼は起きて食べ、かつ飲み、その食物で力づいて四十日四十夜行って、神の山ホレブに着いた。その所で彼はほら穴にはいって、そこに宿ったが、主の言葉が彼に臨んで、彼に言われた、『エリヤよ、あなたはここで何をしているのか』」。



巨礫、玉石:

この地域に次々聖書の記述にあう事物が発見された。岩石の上に高さ 60 フィート、幅 40 フィート、深さ 2 フィートの巨大な玉石が立っている。よく見ると、おどろくなかれ、こんな乾燥地帯に水による浸食の跡が見られるのである！聖書になんと書いていたのだろうか。出エジプト記 17:6 「見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つであろう。あなたは岩を打ちなさい。水がそれから出て、民はそれを飲むことができる」。長い荒野の旅に水がないことに人々は不平を言ったときに、岩を打って新鮮な水がほとぼしり出る奇跡が起こったのであった。そしてそこで宿営していた 2 年間、200 万以上のヘブル人と家畜の群れの必要を満たしたのである。



祭壇:

出エジプト記 17:15 の「主は我が旗」と刻み込まれた祭壇。



12 の柱:

出エジプト記 24:4 のイスラエルの部族に従って建てた 12 の柱。

金の子牛:

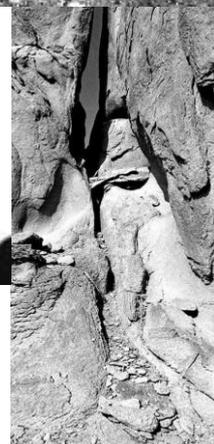
出エジプト記 32:15 - 20 のアロンがつくった金の子牛、金の子牛のエジプトの様式の岩面陰刻(岩に彫り刻む)も見つかった。リヤード大学の考古学者たちがそれに非常に関心を寄せた。それはモーセがイスラエルの偶像に怒りを表し、金の子牛をどのように溶かしたかも表されている。ロンは祭壇の中に金塵も見つけた。



谷川:

申命記 9:21 「わたしはあなたがたが造って罪を得た子牛を取り、それを火で焼き、それを撃ち砕き、よくひいて細かいちりとし、そのちりを山から流れ下る谷川に投げ捨てた。」 その谷川が今日も見られる。

その他に出エジプト記 15:27 に記されているようにエリムの 12 の泉や、民数記 11:8 のイスラエルの民がマナをひいた碾き臼や、レビ:28, 11:33, 15:12 の土器も見つかった。



焼け焦げたシナイ山:

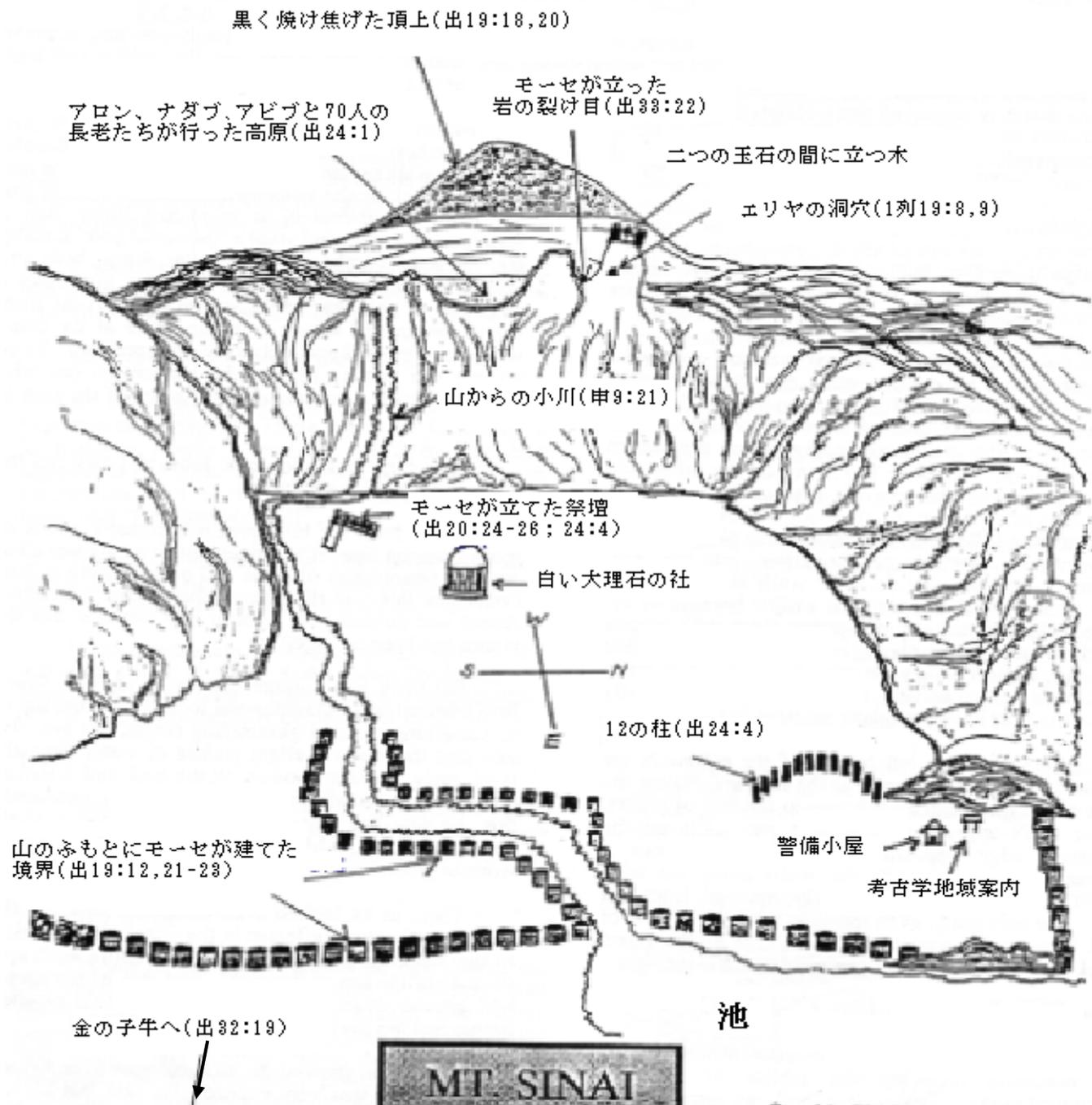
シナイ山の山頂は超自然的な熱で焼け焦がれた跡が今でも残っている。ヘブル 12:18-21, 26 「あなたがたが近づいているのは、手で触れることができ、火が燃え、黒雲や暗やみやあらしにつつまれ、また、ラッパの響や、聞いた者たちがそれ以上、耳にしたくないと願ったような言葉がひびいてきた山ではない。そこでは、彼らは、『けものであっても、山に触れたら、石で打ち殺されてしまえ』という命令の言葉に、耐えることができなかったのである。その光景が恐ろしかったのでモーセさえも、『わたしは恐ろしさのあまり、おののいている』と言ったほどである。... あの時には、御声が地を震わせた。しかし今は、約束して言われた、『わたしはもう一度、地ばかりでなく天をも震わそう』。」



聖なる場所の境界:

出エジプト記 19:12, 21-23 「あなたは民のために、周囲に境を設けて言いなさい、『あなたがたは注意して、山に上らず、また、その境界に触れないようにしなさい。山に触れる者は必ず殺されるであろう。』

聖域とされるところを囲んで黒い石で境がつけられているのが今でも見られる。谷川の両側に沿ってある。



山のふもとの祭壇：

出エジプト記 20:24-26 「あなたがもしわたしに石の祭壇を造るならば、切り石で築いてはならない。あなたがもし、のみをそれに当てるならば、それをけがすからである。」

24:4 「そしてモーセは主の言葉を、ことごとく書きしるし、朝はやく起きて山のふもとに祭壇を築き、」

なぜ、今になって本当のシナイ山が発見されたのだろうか？

今日ほど懐疑と不信のはびこっている時代はなかったであろう。聖書を教える職業にある神学校の教授、牧師でさえ、まじめに聖書をそのとおりに信じている人は少ないと言われている。まして一般人が聖書を神の言葉として信じることは難しい時代である。多くの人は物語の本として、教訓集として読んでいるに過ぎない。このような時代に聖書の記述は正確であり、最も信頼に値する書物であることの証拠を示し、神の言葉としての権威を回復すべき時が来たので

はないだろうか。

この終わりの時に、神はかつてシナイ山で現された威光と力をもって罪におぼれる人類にご自身を現されるであろう。

ヨハネ・パウロ 2 世は、紀元 2000 年の初めに伝説のシナイ山巡礼に行った。皮肉なことではないか。神の十戒を最も憎み、「時と律法を変えようと望む」法王教が神の十戒に敬意を表するためではないと、預言を研究する者はその真意をすぐ察知できるはずである。エキュメニカル運動、全宗教合同のためにはどんな欺瞞的なパフォーマンスでもするのである。

我々は、近い将来、エリヤがカルメル山でバールの偽預言者と対決したように神の戒めか、人間の法律かという最後の大争闘でローマ・カトリックと対決する。今こそ我々自身、神の言葉に対する単純な信頼と絶対的な服従をすべき時ではないだろうか。また、シナイ山で与えられた神の律法の権威に人々を目覚めさせるべき時ではなかろうか。



世界最大の隠れたテロ集団

ワシントン タイムズ 2001年4月16日

「1960 年、ジョン・F・ケネディーは、プロテスタントの説教家たちに彼は法王に従わないことを確約するためにワシントンからテキサスへ行った。2001 年にジョージ・ブッシュは、カトリックの司教たちに彼は法王に従うことを確約するためにテキサスからワシントンへ行った。」

ジョージ・W・ブッシュ大統領は言った:

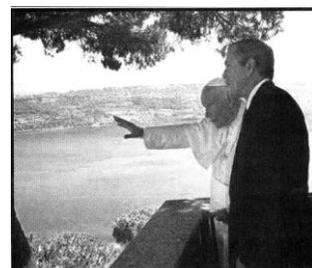
「真に偉大な人物の一人、法王ヨハネ・パウロ 2 世に敬意を払う最上の方法は、彼の教えをまじめに受け取り、彼の言葉に聞き、その言葉をこのアメリカにおいて実行に移すことである！」 Partricia Zapoa, Catholic New Service, 3-24,2001.

どの大統領が暗殺されたか？犯人はどのテロリストであったであろうか？

国際テロ集団撲滅に踏み切ったブッシュ大統領の行為は、隠された世界最大のテロ集団、法王の最強の闘士、イエズス会と関係があるのだろうか？



2001年9月11日、ニューヨークで起こった同時多発テロ事件は世界の人々を驚愕させた。ブッシュ大統領は「新しい戦争、新しい敵」を国際テロ集団と宣言して、テロ撲滅のためだという大義名分でアフガン、イラク攻撃に国際世論、国連の同意を得ずして強引に急いだ。アメリカのやったことに対して賛否両論、政治的、人道的な立場からいろいろな議論がなされているが、我々はもっと深い物の見方をしなければならない。あの事件を預言的な見地から読むことも非常に興味深い。しかし、この記事ではそれに触



れない。

最近、アメリカの友人から”The Secret Terrorists”という本が送られてきた。直訳すると「秘密のテロリスト集団」となるだろうか。知られざる世界最大のテロ集団ということである。著者は、ビル・ヒューズで、セブンスデー・アドベンチストである。テロというと「恐怖」のことで、テロイズムというと「強制・制圧のための」組織的暴力[脅迫手段]と辞書にある。テロリストというと、「政治的理由で要人を暗殺する者、暴力革命主義者、むやみに恐怖を起こさせる人」のことである。

この本の著者は聖書と証の書にもとづいて世界最大の隠れたテロリストは何者であるかを解き明かしているのには、私も驚いた。世には多くの陰謀書が出回っている。国際ユダヤの世界支配陰謀、フリーメーソンの世界支配、イルミナチの世界支配、ロスチャイルド、ロックフェラーの陰謀、さまざまな秘密結社等々。非常に興味深い。高度な彼らの秘密結社の誰が最高院を構成しているかを知っている者はごくごくわずかであるというのである。

しかし、やっとある英語の本にこれら秘密結社の最高院はイエズス会であるということを読んだことがある。

「秘密のテロリスト集団」のキャッチフレーズにこう書いてある：「合衆国は、今日かつてないほど大いなる危機に立たされている。隠れたテロリスト組織が内部からアメリカ国の憲法とその立っている基礎を崩壊させようとはたらいっているのである。この本はすべて詳細にわたって、どこまでアメリカ合衆国の崩壊が進んでいるかを描写している」と。

我々は、靈感の書、聖書と証の書からローマ法王権こそ世界支配をねらう最大の秘密結社であることを知っている。黙示録、13章と17章。そのためにはあらゆる手段を講じることも知っている。

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行なったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている。カトリック教は至るところに地歩を占めつつある。」

大争闘下 321

中世時代、この隠れたテロリスト集団によって殉教した者の数は、1億近くもあると言われている。預言者は、「ローマ教会は…異教におとらないほど残酷でいまわしい慣習を用いてきた。ローマ法王の至上権時代には、教会の教理に対する同意を強制するために拷問の道具があった。教会の主張に譲歩しない者のためには火刑柱があった。審判においてはっきりさせられるまでは決してわからないほどの規模の虐殺があった。」と言っている。

大争闘下 326

中世時代に、ローマはヨーロッパで実証済みである。今度は世界支配のために今までどんなことをしてきたか、どんな事件を起こしてきたか、近年起きていることはローマとどんな関わりがあるのかが分かってきた。歴史をキリストとサタンの大争闘の観点から見ると、ダニエル書と黙示録がもっと身近なものに感じられる。

イエズス会について誤りのない描写が大争闘上巻の 293-294に次のように書かれている：



イエズス会の策動

「このとき、改革事業に一大危機が訪れた。ジュネーブに対して法王の破門が宣言され、強国がこぞってジュネーブを威嚇した。これまでしばしば国王や皇帝を屈服させた強力な教権に、この小さい都市がどうして対抗することができようか。世界の偉大な征服者たちの軍隊に、どうして対抗できようか。

プロテスタント主義は、全キリスト教国において、恐るべき敵に脅かされた。改革事業の最初の勝利は過ぎ、ローマはその全滅を期して新たな勢力を奮い起こした。このとき、法王教の全闘士中、最も残酷で無法で強力なイエズス会が創設された。彼らは、世俗のきずなや人間関係から切り離され、人情も理性も良心もいっさいを無視して、彼らの会以外のどんな規則もきずなも認めず、ただ、その権力を伸張することだけを義務とした（付録参照）。キリストの福音は、その信者たちに、危険を冒し、苦難に耐え、寒さ、飢え、労苦、貧困にもめげず、真理の旗をかかげ、拷問も投獄も火刑も恐れない力を与えてきた。この勢力に対抗するために、イエズス会は、その会員を狂信的にさせ、同様の危険に耐えるように、またあらゆる欺瞞の武器をもって真理の力に対抗するようにさせた。彼らは、どんな犯罪を犯しても罪にならず、どんな欺瞞を行なってもかまわず、どんな偽装もわけなくできた。彼らは、一生の間貧困と質素な生活を送ることを誓ったが、その目的とするところは、富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興することであった。」

彼らは、会の会員として活動するときには聖衣をまとい、牢獄や病院を訪ねて病人や貧者に奉仕し、世俗を捨てたことを公言し、よい働きをしながら巡回されたイエスの清い名を帯びていた。しかし、この潔白な外観のかけに、しばしば、極悪非道な目的が隠されていた。目的は手段を正当化するというのが、会の基本原則であった。この規定によって、虚偽、盗み、偽証、暗殺などは、教会のために役立つならば許されるだけでなく、賞賛すべきものであった。さまざまな偽装のもとに、イエズス会の会員たちは、国政にまで手を伸ばし、国王の顧問の地位について、国家の政策をまとめた。また、人々の様子を探るために、そのしもべとなった。彼らは、王侯、貴族の子弟のための大学を設立し、一般の国民のための学校を建てた。そして、プロテスタントの親の子供たちは、カトリックの儀式を守るように影響された。ローマ・カトリックの礼拝の華麗な様子は、心を混乱させ、想像力を眩惑し魅惑した。こうして子供たちは、彼らの父たちが苦難と血によって得た自由を売り渡してしまった。イエズス会は、ヨーロッパに急速にひろがった。そして、彼らの行ったところは、どこでも法王権が勢力を回復した。」

「隠れたテロリスト集団」の著者、ビル・ヒュージスは、アメリカ大統領の暗殺、タイタニック号の沈没、第一次世界大戦、第二次世界大戦、テキサス、ウエイコーの虐殺、オクラホマ市の爆破、ニューヨーク、世界貿易センター攻撃等々にイエズス会が関わっていることを記している。

世の人々が国際テロ組織に恐怖の目を向けている時に、ビル・ヒュージスは、世界最大のテロ集団はイエズス会だと言い切ってはばからない。

聖書と証の書によれば“イエズス会”は、過去においてそうだったように、これからはなおさら、新世界秩序構築のためにその恐ろしい本性を現すにちがいない。

カトリックのテロ行為—赤間剛氏のリサーチ

そこで、世の人々はキリスト教と言えばカトリック教会と言わせるほど洗脳されている時に、赤間剛氏をしてローマ・カトリック教会、あるいはバチカンのテロイズムのな面を語ってもらおうと思った。彼は「ヨーロッパの地球支配はバチカンの犯罪史でもある」と言っている。教皇庁のデタラメぶりは、「教皇庁の闇の奥」という本に暴露されているようだ。赤間氏は愛の宗教、キリスト教の名のもとになされた恐ろしい残虐の歴史を見て「私はカトリックのこのような現在の姿勢に怒りでペンがふるえてくるのを禁じえない」と言っている。だから、彼は有神論を否定して自分は無神論だと表明しているのである。

赤間剛氏はその著書「バチカンの黙示録犯罪」にローマ法王教のテロ行為を詳細にわたって書いているので、読者に紹介したい。

理由は、過去のテロ行為は近い将来、我々セブンスデー・アドベンチストに向けられるからである。

ローマ・カトリックはキリスト教ではない。「サタンの権力が生んだ一大傑作、サタンの代表者」である。過去の罪は謝罪している、カトリックは変わったなどの甘言にだまされてはならない。神は「ローマは決して変わらない」と言われる。ローマ法王制度のカトリック教会のことを言っているのである。世界最大の隠れたテロ集団である。

しかし、強調しておきたい!! 間違っってはならない!! カトリックの中に知らないでその中にいる誠実な「多くの神の民がいる」と預言者は明言していることを（大争闘下 132）。

なぜ私はセブンスデー・アドベンチスト改革運動に 加わらないか。

セブンスデー・アドベンチスト改革運動は、聖書と証の書に非常に熱心である。彼らは一生懸命神の戒めに忠実に従おうとしている。まじめに教えを実行している人々である。それは高く評価する。どの宗派もそうであるが、そのグループの指導者の教えを神の教えかのように鵜呑みにしていることがよくある。創造主の能力に最も近い能力一個性、すなわち自分で考え行動する能力(教育6)が指導者によって殺されていることがある。

私は、これほど熱心に証の書を掲げる SDA 改革教会は本当のものだろうか、もし聖書と証の書にかなっているなら、このラオデキヤ教会を脱出して最後の運動に加わろうと思ったことがあった。日本の改革運動の指導者に会い 4 時間も話を聞いた。彼は真の神の民は、各時代堕落した教会から分離したという事実を証の書の引用文を羅列して提示してくれた。確かに神の民は純潔を保つために堕落教会から分離してきた。だから、これほど背教し堕落したラオデキヤのセブンスデー・アドベンチストから出るのは当然という結論を引き出しやすい。しかし、私は現代の預言者がその証しに何と言っているかを調べる時に、その結論は間違っていると確信した。

私は、埼玉にある改革運動教会にも一晩泊まって、改革運動の世界総会の指導者にも会った。帰って静かに証の書を調べた時に、やはりこの改革運動は預言された本当の改革運動ではないことを確信するに至った。

彼らは第一次大戦の時にヨーロッパで起こったことを必ず話す。ヨーロッパでセブンスデー・アドベンチストが政府と妥協して原則から離れてしまい、忠実に原則に立った者たちが後になってやむなく SDA 改革教会を結成したという。さらに、1888 年にミネアポリスの世界総会で、後の雨／大いなる叫びをもたらすはずの「最も尊いメッセージ」をセブンスデー・アドベンチストは拒んだ。その使命を受け入れた者の集まりが SDA 改革運動だというのである。わが SDA 教会は公式に、1888 年のメッセージを拒否したことを認めようとしなないことは残念であるが、しかし、それを受け入れ、黙示録 18 章の大いなる天使の働きをしているのは、改革運動であるとするのはあまりにも独断的な、証の書の曲解である。

ある人は、SDA 改革教会員の生活に魅了されている。その雰囲気が再臨信徒らしいということ、そこに加わる理由としている。何が教えられているのかは問題にしないでその宗教的雰囲気、ムードが素晴らしいという理由でその集会に出席するなら、どんなに危険であるかを神の僕は警告している(初代文集 230)。このことは、どの宗教、教派にも当てはまることである。

カトリック教会は、その点において抜群である(大争闘下 322-323 参照)。しかし、聖書と証の書を掲げる教会においてさえも、その宗教的雰囲気、熱心さ、生活の仕方だけを見て、彼らの教えが「おきてと証」にかなっているかどうかをベリヤの信者のように、つぶさに調べてみようとしないならば、非常に危険である。サタンは光の天使をも装って、しかも神の言葉を引用して選民を惑わすことを覚えていなければならない。ただ唯一の見分ける方法は、「おきてと証」のみである。

確かに真理は、それに従う者たちを清めるはずである。それが生活に表されるはずである。

「服従は弟子であることの試金石である。わたしたちの神に対する愛の真実性を証拠だてるのは律法の遵守である。わたしたちの受け入れる教理が心の罪の根を断ち、魂を汚れから清め、清きに至る実を結ばせるなら、わたしたちはそれが神の真理であることを知ることができる。博愛、親切、情け、同情がわたしたちの生活に現われ、正しいことをする喜びが心の中にあり、わたしたちが自分ではなくて、キリストをあがめるならば、わたしたちの信仰は正しいものであると知ることができる。『もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである』(ヨハネ第一・2:3)。」祝福 183

しかし、だからと言って真理はどうでもいいということではない。

「真理と神の栄光とは、切り離すことができない。われわれは、手近に聖書を持っていながら、誤った見解をもって神をあがめることはできない。多くの人々は、生活さえ正しければ、何を信じているかは問題ではないと主張する。しかし生活は信仰によって形造られる。光と真理が手近にありながら、それを聞き、それを見る特権を利用するのを怠るなら、われわれは事実上それを拒絶し、光よりもやみを選んでいることになる。

『人が見て自分で正しいとする道があり、その終りはついに死にいたる道となるものがある』(箴言 16:25)。神のみこころを知るあらゆる機会がある時に、知らないということは誤謬や罪の言いわけにならない。人は旅をしていて、それぞれの行く先を示す道標のある別れ道にさしかかる。もし彼が道標を無視して、自分に正しいと見える道を選ぶなら、彼がどんなにまじめであっても、自分がまちがった道を歩いていることにおそらく気づくであろう。

神は、われわれが神の教えに通じ、神が求めておられることを自分で知ることができるようにと、み言葉をわれ

今日のセブンスデー・アドベンチスト教会の背教と墮落の状態を嘆く人は少なくはない。だからと言って、誕生も、背教も預言されていたこの教会を離れる必要はない。この教会は「自分自身を嫌悪するまで」背教が続くのである。古代イスラエルと同じ足跡をたどることを預言者は明言している。預言者は我が教会にやってくる背教のオメガに身震いした。キリスト再臨直前の教会は、初臨直前の神の民の状態とそっくりだと主の僕は言っている。我が教会は古代イスラエルよりももっと危険だと言っている。収穫まで麦と毒麦は育つのである。日曜休業令が最後の目に見えるテスト、震いとなる。その時こそ、教会の危機と沈下が最高に達するのである(5 T209)。教会の中に金と金屑が残っている。教会の中に教会の状態を嘆き、約束を待ち望む者と広い道を歩み、平和だ無事だ、教会は繁栄しているとうぬぼれる大部分を構成する者がいることを預言者ははっきり言っているのではないか。

大いなる震いの後に清められ、完成された教会が出現することも預言されている。法令が出て神の印を受ける者たちは、教会で行われている「悪しき憎むべきこと」を嘆き悲しむと言われている。最後のテスト、日曜休業令の時に、シオンの罪人が、しかも大部分のものが、更に多くの星(指導者)が教会からふるい落とされ出て行くのである。忠実な者たちはどんなにつらくともセブンスデー・アドベンチストとして残るのである。忠実な者たちが今、セブンスデー・アドベンチストから出る時ではない。神の「忠実」な者たちは教会の中で「少数」で「今は隠されている」のである(5T80,81 参照)。我々は、セブンスデー・アドベンチストから出るのではなく、最後まで残るのである。日曜休業令のテストによる震い、分離が来る時に不忠実な、保守的な、世俗的な者が出て行くのである。

「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般向けのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる。」大争闘下 378

「そしてその時、みわざの進展を着実に遅らせる影響力を与えてきた、浅薄で、保守的な階級は信仰を捨て、これまで長らく共鳴してきた自ら認めた敵たちの側に立つであろう。これらの背信者は、それから、以前の兄弟を迫害し、そしり、また彼らに対する怒りをあおりたてるために全力をしぼって、最も痛烈な敵意を示すのである。この日がまさにわれわれの前に迫っている。」クリスチャンの奉仕 227

古い真理は重要である。我々は先駆者たちが築いてくれた堅固な土台から一步も降りることはできない。新しい真理は重要である。世の終わりまでこれからも「光の洪水」を与えると約束なさっている。古い真理に堅くたつて新しい真理に進み続けなければ、必ず教会は形式化する(実物教訓 105 参照)。それがプロテスタントの一大原則である(大争闘上 374 旧訳)。セブンスデー・アドベンチストは生き残っている唯一の終わりの時の「プロテスタント」である。古き良きものだけにどんなにしがみついても、また古きものを外れて新しい光にまじめであっても、裁きのときには主イエスから「わたしはあなたを知らない」と言われてしまうのである。そもそも古い真理をすてた「新しい光」というものは、真理の世界にはない。今日の我が教会の「新神学」は、神の嘉せられるものではない。

セブンスデー・アドベンチスト改革運動の起こりと歴史についてはここでは触れない。ただ彼らの教えにおいて明らかに間違っている点をいくつか指摘したい。

1. 墮落した教会、セブンスデー・アドベンチストから出なさい。

1844年にバビロンという表現は諸教会に適用された。しかし、1888年のメッセージを拒んで、バビロンは倒れた、ゆえに出てきなさいという大いなる叫びは一般諸教会以外のものでなければならない。それはセブンスデー・アドベンチストであるというのである(改革の研究コース第16課)。証の書をあんなに掲げながら、聖句は聖句で、証の書は証の書で解釈しないちぐはぐな結論である。1888年以後、主の僕は教会がバビロンとなったから出てきなさいという事は、敵を喜ばせる、神から出たものでないと幾たびも強く警告している。(教団から出された「残りの教会」という小冊子がある)。

改革教会は、初代文集 93,423 を引用して諸教会と、「名目的再臨信徒」、すなわちセブンスデー・アドベンチストから出よという意味に使う。全くの曲解である。「名目的再臨信徒」の説明は、初代文集 32,481 ページに記されている。もし、預言者が、セブンスデー・アドベンチスト教会は、墮落し、神から見捨てられた教会であると言った証拠を靈感の書から示すことができれば、私も喜んで出る。

「分離はいつ?」というプリントがあるので、主の僕の言葉を読んで欲しい。ここで、いくつか引用する。

2SM113—「分裂が教会の中に来るであろう。二つのグループが発展するであろう。麦と毒麦が収穫の時まで育つであろう。その時分離の働きをするのは天使たちである。」

「収穫の時」は、「さばきの時」であり、印される時である(TM234,235)。最後のテストで分離される時である(5T81)。「神の民が印される前に獣の像が立つ」それは「神の民の永遠の運命を決定する事件」である(7BC976、ス・バイブル 585)

TM234,235—「さばきの時は最も厳粛なときである。その時、主は毒麦からご自分のものを刈り集められる。同じ家族の者が分かれたる。義人に印が押されるであろう。...それは永遠の分離の印である。」

1 SM179—「あなたは恩恵期間の終了や神の民の間のふるいについて語られている証の中の文章を取って、もっと純潔な清い民が起こるのでこの民から出なさいと語る。これはすべて敵を喜ばせることである。」

2SM63—「我々は、今や神が建てられた土台から下りるわけにはいかない。今やいかなる新しい組織にも入ることはできない。それは真理からの背教を意味するからである。」

2. 1888年のメッセージ

改革教会は、彼らの存在理由として、セブンスデー・アドベンチスト教会は「1914年に神の戒めを覆した」ということと、更に1888年のメッセージを拒否したからとしている。

預言者は次のように言っている:

「テストの時が、我々の間近に迫っている。なぜなら、第三天使の使命の大いなる叫びが罪を許すがない主、キリストの義の啓示の中にすでに始まった。これは全地をその栄光で充たす天使の光りの始まりである。」
1SM363 RH, Nov 22, 1892 (スタディバイブル新 595)

(※1888年ミネアポリス世界総会で提示されたメッセージのこと)

この文はよく曲解される。わが教会にも1888年の信仰による義認の使命が回復され、教会は発展していると解する人たちがいる。また、この教会はこの時点で使命を拒否し、墮落したので、SDAを出て大いなる叫び、改革運動に加わるように呼びかける人たちもいる。

改革教会は、1888年に始まった大いなる叫びは、自分たちが受け入れ黙示録18:1の運動をしていると主張している。誤りである!

- 1) もし1888年に大いなる叫びの運動が始まったとするなら、他の個所で預言者が、大いなる叫びを未来に置いていることと明かに矛盾する。

「私は聖霊のそそぎが何時起こるのか。大いなるみ使いが天から下りて来て(will) (未来形)世界最後の働きを終えるか、第三天使の使命に加わるかという時については明確な時は示されていない。」7BC984、(1892) (スタディバイブル595)

「黙示録18の預言は間もなく成就するであろう(will—未来)。第三天使の使命が述べ伝えられている間、『もう一人のみ使いが大いなる力をもって、天から下りて来るはずである(is to come—未来)。そして地は彼の栄光によって明るくされる(is to be lighted with 未来)』」(同 1904)

「黙示録に預言されている時は成就するであろう(will—未来)。地を栄光でみたす大いなるみ使いは... バビロンの倒壊を宣布するであろう。」7BC 985 (1892)

「弟子達が聖霊を受けて後のペンテコステのように、一日に多くの者が悔い改める時が来るであろう。」EV 692(1905)。

「迫害の嵐が勃発する時、...神の民は一致団結して敵にあたる。...その時、第三天使の使命は、大いなる叫びにふくれあがるであろう。」同 693 (1900)

「それからまた、もうひとりの力の強い天使が、地上へくだって第三天使と声をあわせ、その使命に力と勢いを与えるように、任務を受けているのが見られた。... 彼がくだっていくと、地上はその栄光に照らされた。この天使が強い声で、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつとなった」と力をこめて叫んだとき、彼をとりまいていた光は四方を照らした。第二の天使によって与えられた、バビロンが倒れたという使命は、1844年以来教会に入りこんでいる墮落についての警告がつけ加えられて、くりかえされている。この天使の働きは、最後の大いなる働きにおいて第三天使の使命が大いなる叫びとなってもりあがるちょうどその時に始められる。...

... 彼らは、バビロンが倒れたことを宣布し、神の民がバビロンの恐るべき運命からまぬがれるために、その中から出て来るように呼びかけ、恐れることなく、最後の厳粛な警告を与えた。

．．． 諸教会の中で、幾らかでも光を持っている人々や、三重の使命を聞いてこれを拒まなかった人々は、呼び声に応じて、墮落した教会を離れた。」初代文集 448-450

「黙示録 18:1,2,4 この聖句は、黙示録 14:8 の第二天使によってなされたバビロンは倒れたという宣告が、繰り返して行われる時を示すものであり、それとともに、この使命が1844年の夏最初に宣言されて以来、バビロンを構成する諸団体に入り込んできた腐敗について述べている。」大争闘下 371~372。

バビロンが完全に道徳的に倒れるのはいつか。それは、人間の戒めによって神の戒めを踏みこじった時である。すなわち、日曜休業令の時である。

「こうした状態になって、教会と世俗との結合がキリスト教国全体において完全に行われるときに、はじめてバビロンの墮落は完全なものとなる。この変化は徐々に行われる。黙示録 14:8 の全面的成就是、まだ将来のことである。．．．

黙示録 18章は、教会が、黙示録 14:6-12 の三重の使命を拒否した結果、第二天使の使命が預言した状態に完全に陥り、そして、まだバビロンにいる神の民が、その中から出るようにと求められる時を示している。」大争闘下 92-93。

- 2) では、1 SM363 の「大いなる叫びが始まった」という意味は何であろうか。「啓示の中に始まった」のである。我が教会に啓示され始めたが教会は拒んだのである。啓示されたが宣伝されなかった。もし改革教会が黙示録 18章の大いなるみ使いの改革運動をしているとするなら、彼らを通して「しるしと不思議、奇跡」が著しく表され、「み業は短期間に、山火事のような、いなずまのような速さで」完成したはずである。信者のうちに「サタンの力が打ち砕かれ」、「しみも、しわもその類のものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会」、「しのめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、旗を立てた軍勢」のように完全に一致した教会となっているはずである。

黙示録 18:1 と 2-4 を分離するのは間違っている。改革教会は 1888年に 18:1 は成就し、2-4 は未来であるという。主の僕は 18:1-4 を分離していない。そもそも 1 節の全地を照らす大いなるみ使いは、バビロンは完全に倒れてから、バビロンはあらゆる悪の巣窟となってから、すべての国民が激しい怒りのぶどう酒を飲んでから、地の王たちは彼女と姦淫をしましてから、地上の商人たちが彼女の極度のぜいたくによって富を得てから送られる天使である。それ以前には、この最後の大改革の運動は起きないはずである(別紙の研究)。

3. 後の雨／大いなる叫びを、日曜休業令の前に置いている。

黙示録 18:1 の大いなるみ使いは、1888年に下りてきたと言いながら、後の雨／大いなる叫びは未来に置くのはおかしい。それに後の雨が日曜休業令の前に降り、そのために備えることは、証の書のどこにも見当たらない。後の雨は、大いなる悩み、キリストの再臨に備えるものであって日曜休業令に備えるものではない。

「その時に、『後の雨』すなわち、主のみ前から慰めの時が来て、第三天使の大きな声に力をそえる。そして、最後の災害が下る時に、聖徒たちが立つことができるように準備を与える。」初代文集 173

「この天使の働き(黙 18:1)は、最後の大いなる働きにおいて第三天使の使命が大いなる叫びとなって盛り上がるちょうどその時に始められる。神の民はこのようにして、まもなく遭わねばならない誘惑の時に立つ準備ができるのである。」初代文集 448

「神の民には天来の力がやどり、彼らは働きを完成して、目の前の試練の時に対する備えができていた。彼らは、後の雨、すなわち神のみ前より来る慰めを受け、生ける証が復活していた。」初代文集 451 ※目の前の試練とは、大いなる悩みの時のこと。大争闘下 385

「．．． 彼らは後の雨を受けて、そして昇天に適する者となった(用意ができた)。」1T187

「季節の終わり近くに降る後の雨は、穀物を熟させ、刈り入れに備える(再臨のこと)。」TM506、黙 14:14

「後の雨が、．．． 教会を人の子の来臨に備えるのである。」TM506

「彼らは、聖なる神の前に生きるのに適した者とするために、．．． 慰め(後の雨)を受けることができなかった。」初代文集 149

4. 完全な品性は、日曜休業令の前に経験されなければならないと言う。

日曜休業令から生ける者のさばきが始まり、罪の除去を経験して初めて罪のない完全な状態にされるのである(国指下 193-196)。

「法令が発布されて印が押される時、彼らの品性は永遠に清く、しみのないものとなる」5T216

5. 144,000 の神の印についての誤り。

1844年から字義どおり 144,000 人が生ける神の印を受けているということは、これらの人々はもう仲保者が要らない状態にされたということだろうか？彼らはもう全能者の覆いがかけられていたというのであろうか？144,000 の印を受けるということは七つの災害の時に守られる覆いを持っていることになる。

詳しくは「144,000 とはどのような人々か」のプリントを参照。

6. 神の印、後の雨、罪の除去、生ける者のさばき、大いなる叫び、完全な品性がバラバラである。

144,000 の神の印を後の雨と切り離している。生きて主を迎える神の印は、後の雨によって印されるのである。大いなる悩みの時とキリストの再臨に備えるための経験である。改革教会は、1844年から144,000の印する働きが始まっているとしていながら後の雨を未来に置いている。後の雨は調査審判において罪の除去がなされて経験される。死んで主を迎える聖徒たちは、死んで後さばきを受けるのである。ゆえに死んだ義人は、後の雨を経験しない。全能の覆いをかけられる聖徒たちは、後の雨／神の印によってそれを受けるのである。生ける者のさばきは、大争闘がホワイト夫人によって最後に確認された時(1911年)にも、「まもなく」と未来に置いている。

日曜休業令は生ける義人のさばきのシグナルである。生ける神の印が押される時である。神の民の永遠の運命が決定される時である。その時は完全な品性の準備ができましたと言ってさばきの座に出るのではない。否、彼らは自分自身の罪と、無価値さと無力さを最も深く意識し(国指下 193-196)、教会の罪を嘆き (3T266-7)、キリストのために深く嘆き悲しむ(ゼカリヤ 12:10)時である。決して決して日曜休業令の前に完成して、自分の忠実さ、功績を差し出して神の前に出るのではない。彼らのへりくだりが最高潮に達する時、大祭司イエスは彼らのために最後のあがないをなされ、最後の戦いのために、悩みのためにすべての祝福を注がれるのである。だから、教会の背教が絶頂に達する時(5 T209)、シオンに残っている聖徒たちは、罪人の頭として生ける義人のさばきに出頭する→罪の除去がなされ→後の雨によって印され→永遠にしみも傷もないものとされ→大いなる叫びに立ち上がる。これらの経験は切り離すことのできない一セットとして与えられるものである。

神の約束を神のシナリオどおりに受け入れない時に、人間工作でイシマエルを得ることになる。神の時と方法に従うことが肝要である。

7. 改革教会の教えにも誤りがあるかもしれないが、セブンスデー・アドベンチスト教会の中にはもっと神学の誤りがあるではないか。改革教会の人がもっと証の書に忠実に従っている。」

私のところに、オーストラリアで発行された「SDA と SDA 改革派の違いは何か？」というパンフレットがある。安息日の守り方、戦争に対する対応の仕方、政治に関与すること、結婚と離婚問題、144,000、黙示録 18 章、ハルマゲドン、同性愛、預言の霊等々について述べている。セブンスデー・アドベンチスト教会は全体として世俗化していることは指摘されるまでもない。「さまざまな教えの風が吹きまくる」という預言のとおりである。

セブンスデー・アドベンチスト教会は基本的には堅固な土台の教えの中で、保守派からリベラル派に至るまでの解釈が許容されている。一致していないのは確かである。サタンは最後の真の教会の土台を崩そうと必死になっているが、その中で忠実に真理を保持する者たちがいる。しかし、改革教会は、明らかに間違った教えが教会共同体として教えられ、それ以外の解釈は許されない。

我々は、教会の中で神の約束を忍耐強く待ちたいものである。準備したいものである。

「われわれは預言者たちや使徒たちが試した信仰を抱いて、それを強めるようにしなければならない。それは神の約束をしっかりと把握して、神がお定めになった時と方法によって救いをお与えになるのを待つ信仰である。預言の確かな言葉は、われわれの主、救い主イエス・キリストが、王の王、主の主として栄光のうちに再臨なさるときに、完全に成就するのである。待望の期間は長く思われるかも知れない。心は失望的状况下に圧倒されるかも知れない。また、信頼されていた多くの人々が、途中で倒れてしまうかも知れない。しかしわれわれは、未曾有の背信の時代にあって、ユダを励まそうと努力した預言者と共に次のように言おう。『主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ』(ハバクク 2:20)。『この幻はなお定められたときを待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおそれれば待っておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。……しかし義人はその信仰によって生きる』(同 2:3,4)という励ましの言葉を常に覚えていよう。」国指下7

※ その他にもアメリカで改革運動のメンバーであった人が脱会した理由を記事にしたのがある。トーマス・E.ダーストのは訳されている。ヴァンス・ファーレルの記事もある。

2003 年秋季セミナー案内

第三天使の使命と医事伝道

「医事伝道と第三天使の使命の宣伝とを結合しなさい。何年もの間死んだ状態のままのレベルから教会員を向上させるために系統的に組織的に努力しなさい。諸教会に第三天使の使命と関連して、すべての家族、個人の前で健康改革の原則に生きる働き人を送りなさい。みんなが同胞のために働くようにしなさい。そしてあなたの教会に生命の息が入ってくるかどうかを見なさい。」TM18

ゲストスピーカー ドクター サング・ミン・イム (M.D)

韓国医科大学を卒業後、米国留学。西洋医学の医学博士でありながら、治療は自然療法、東洋医学も併用しておられるようです。この度、我々のために1週間の時間を割いてくださり、医事伝道を指導して下さることを感謝しています。午前中は健康の講義、午後は実際の診察、健康相談をして下さいます。夜は、霊的なメッセージを研究して下さいます。

また、彼はジュース断食で癌、白血病や糖尿病、その他の病気に非常に効果をあげておられるようです。この際、病気の原因と予防と治療を学ぶ絶好のチャンスとしましょう。病気の方には3日間のジュース断食をしながら、そのやり方を教えて下さることになっています。

ゲストスピーカー シン・ヒュン・キュウ牧師

韓国独立伝道の指導者です。山の中にカントリー・リビング・エジュケーショナル・センター(田舎生活教育センター)を持っておられます。ドクターイムとチームを組んで伝道しておられます。中国、ロシアに伝道して韓国人教会を持っておられます。

※ 沖縄薬草研究者も招待予定です。

期日：10月11日(安息日)～18日(安息日)

プログラム：

10日、11日は、金城とスタッフによる研究

ドクター イム一行は、12日(月)朝から18日(安息日)まで。

午前 6:30～7:30 申牧師と金城による聖書研究

8:00～ 朝食 患者は3日間のジュース断食(希望者も可)

9:15～10:30 健康の講義

10:45～12:00 健康の講義

昼食 12:30

午後はドクター イムによる診断と治療、カウンセリング

患者以外は、フリータイム

オプション：マッサージ、聖書研究、散歩

美しいビーチ、海洋博に車で10分で行けます。

夜 7:00 ドクター イムによる三天使の使命の研究

費用：宿泊料、食費 1日¥3,000 (資料代、治療費は別)

申し込みは、9月中にお願いします。

電話：0980-56-2783、ファックス：0980-56-2881 Email: sanchor@cosmos.ne.jp

住所：沖縄県今帰仁村今泊 1471

郵便振り込み番号：02080-0-12121 サンライズ・ミニストリー

去った春のセミナー：

スキート兄による「開かれた聖所に入れ」の研究は、新しい知識で出席者約80人の目が開かれる有益な研究でした。詳細にわたって聖所はなお我々の品性建設に重要な教訓を与えていることを知りました。テーマソング出25:8は再臨信徒がいつも覚えていなければならないテーマです。



Counsels on Diet and Foods

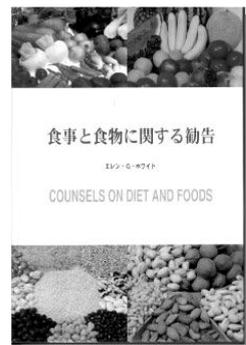
新発行 E.G.ホワイト著 食事と食物に関する勧告 **NEW**

近年になって、やっと病気の原因、健康の秘訣は生活様式だといわれるようになったが、エレン・G・ホワイトが一世以上も前にそのことを強調したことに権威者たちも驚いているのである。

彼女の「食事と食物に関する勧告」はビタミンという言葉さえないときにかかれたものであるが、この書を読む人々に大いに健康と幸福をもたらす。

価格：2900円(送料別)

サイズ：15cm×21cm



現代の真理

この本を正しく研究するなら、再臨信徒の困惑を整理し、魂の飢えを満たす。

聖所の研究を通して終末事件、義認、清め、完全、主に会う備えの方法を知る。さまざまな教理の風に吹きまわされないために、正しく理解する必要がある。SDA 教理の真髄。

主題別索引、聖句索引、証の書の索引付き、さらに質問でその答えを見出せるようにしてあるので便利。

価格：1,500円(送料別)

サイズ：15cm×21cm



前途の危機 ロバート・W・オルソン編

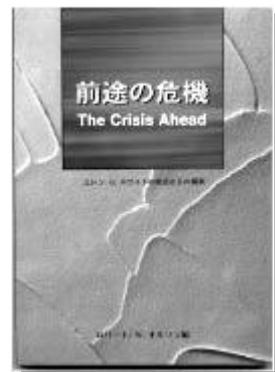
将来のこと、恩恵期間の終わり、悩みのときのための備えの働き、救いにいたる知恵が預言の中にはっきり示されている。

「しかし、多くの人々は全然啓示を受けなかったかのようにこれらの重要な真理を理解していない」(大争闘下 359, 360)。それは「順序どおりに成就する」(国と指導者下 144)。

E. G. ホワイトの著述からの編集。全部質問形式で、答えを証の書から引用。索引付き。

価格：1,800円(送料別)

サイズ：18cm×25cm



「終末時代の音楽戦略」 ¥450

人心をとらえるサタンの魅惑的な音楽が多く、魂を堕落させている。それは残りの教会にも侵入してきている。ヨルダンを渡る前のイスラエルに仕掛けられた罠のように。

ホームページを開設しました。
<http://sunrise.systema-tech.com/>

発行：サンライズ・ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471

Tel: 0980-56-2783 Fax: 0980-56-2881 Email: sanchor@cosmos.ne.jp

郵便振り込み番号：02080-0-12121 サンライズ・ミニストリー